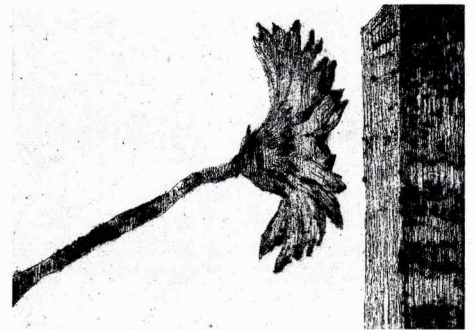


朝日歌壇



〈ガーベラとビル〉

岩尾恵都子

● 永田和宏選

雪の谷 ニノ瀬に響く鹿柵のアンカーを撃つ
鉄槌の音 (京都市) 中川 大一
「あのね私退職したの一月で」既読の付かない
亡夫にLINEす (仙台市) 関戸美起子
波間からはつきり聞こえた友の声あの忘れ
じ3・11 (宮城県) 檀原 渉
自販機に「使えません」と嫌われて野口英世
はまだ手放せぬ (川崎市) 寺尾和伸斗
いち枚の葉書取り上げ馬場さんは「ダメなの
よねえ」もしやわがこと (柏市) 菅谷 修
担任が代わるみたいないな細さ馬場あき子氏の
選者退任 (観音寺市) 篠原 俊則
式の日には羽織袴の馬場先生文京五中は楽しか
りけり (東京都) 池辺 史生
「なのです」と語尾美しき語り口 選は今年
で終りなのです (松江市) 小柴 亘
☆「歌詠むは心が外に出たい時」と教えくれし
は馬場あき子さん (中津市) 瀬口 美子
浜風に乾かす古き蛸壺に猫眼りをる屋下がり
の鳥 (さいたま市) 齋藤 紀子

【評】中川さん、言葉の響きが一語一語力強く響き、まさに歌の現場から聞こえるよう。関戸さん、私にも最近亡くなったLINE仲間がいる。やはり既読のつかないのが哀しい。五首目は馬場さんの映画「幾春かけて老いゆかん」の一シーン。

● 馬場あき子選

雨水すきて木木は目覚める伐れつつ春の水
噴く榎の大樹 (運田市) 斎藤 哲哉
処理できぬ多量のデブリある中で原発帰還政
府は決める (亀岡市) 俣野 右内
遺体収容任務で味方の兵探すウクライナ女性
志願兵 (佐久市) 五十嵐芳孝
寒厳し花鉢の土にモミかぶせ辛抱だよと共に
春待つ (飯田市) 草田 礼子
しつけ糸まだ残るブリーツ 制服を試着する
子の豊かな未来 (観音寺市) 篠原 俊則
バスディ女孫に贈る詩を求め半世紀ぶり書
店立ち読み (一宮市) 今出 公志
忘れまじ十五年目の福島は花は咲けども何も
変わらぬ (須賀川市) 近内志津子
大出水に運ばれて来し球根が利根川の河原に
水仙の咲く (前橋市) 荻原 葉月
はじめての卵を生んだ鶏がイタチに殺られ愕
然とする (対馬市) 神宮 斉之
母が逝き三年経つてばつと辛夷のやうに
記憶が開く (高松市) 島田 章平

【評】第一首の雨水は気候が雪から雨に変わる二月十九日ごろとされる。榎の大樹は伐られながら春の樹液を噴出している。その生命力を称えつつ伐るのが惜しまれる。第三首の女性兵士の現場での思いは切実を超える。これが戦争なのだ。

短歌時評 言葉のアクセス性

小島 なお

近年、全国の短歌大会から高校生以下の部門が減っていると感じる。予算などの問題もあるだろうが、盗作や類似作の増加が一因だと聞いたことがある。SNS上などであらゆる短歌作品に容易にアクセスできるために、課題に窮してネット上で拾った作品を投稿してしまうことがあるのだろう。もったいないことだ。戦渦の「渦」、戦禍の「禍」との違いより知るべきことはもっとあるはず

佐野晃太

生物基礎ふたりで読んで、このままで、いさせてくださいアラスカの森
鳥籠茶溢し生まれた大陸を指で切つて
もすぐ繋がるの 上村爽太
いずれもここ数年の短歌大会で出合った高校生の作品。一首目、現在進行形の戦争が行われるなか、机上で言葉の意味の微差を学んでいる今の歯痒さ。二首目は、環境破壊によって失われる原生林と、脆く儚い学生時代の友人との関係と

が重ねられている。三首目では、零れた鳥籠茶の水溜まりを分断する自分の小さな指から、地球上の大陸を分断する大きな政治の指を空想する。
ここに書かれた言葉は、ネットからはもちろん自身からも容易に取り出されたものではないはずだ。自分の立っている場所の不安定さ、社会との途方もない距離、自分たちを庇護するシステムを自覚しながら、それがときに告発すべきものであること。本来、心を表す言葉はアクセス困難なものである。だからこそ詩が必要とされる。指先ではなく生きる全身が感受した言葉が待たれている。(歌人)

記者サロン「馬場あき子さんと振り返る 朝日歌壇の半世紀」 馬場あき子さんの退任を記念したイベントを4月19日午後2時から朝日新聞東京本社で開きます。会場参加(定員100人)の締め切りは4月10日。25日からオンラインでも視聴可能。紙面購読者は無料で申し込みます。申し込みは募集ページ (<https://t.asahi.com/woov>) またはQRコードから。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(※1作品1投稿)。

● 佐佐木幸綱選

馬場先生お疲れさまです選ばれし拙歌も誇り
半世紀近く (旭川市) 齊藤 洋子
亡き母と同年かと馬場さんの退任の記事讀
みて読む (長崎県) 稲垣 妙子
思いきや馬場あき子さんいつの日か「朝日」
退かる日のあるうとは (水戸市) 中原千絵子
☆大雪で遅れる電車いつもとは違ふ顔ぶれ職場
へ向かう (富山市) 松田 わこ
アメリカは世界の警察だったのに今やすつか
りベニスの商人 (松阪市) 笛木 敏子
灯つく家への帰郷は嬉しいと一人暮らしの子
はボツリ言う (東京都) 渡辺 美香
カラオケにシニアの増える木曜日医療機関は
お休み故か (吹田市) 小山 安松
鰻屋の女将と交わす会話から常連らしき父の
横顔 (アメリカ) 椎名ろさな
書棚には高橋和巳の本ありて一途に読んだ大
切な本 (別府市) 藤内 浩
暖かい日差し、微かな川の音、梅のおむすび
二人で分ける (盛岡市) 木村 英樹

【評】第一首から第三首、半世紀近く朝日歌壇の選者をつとめて来た馬場あき子さんが三月いっぱい退任されることになった。それを惜しむ歌が今月はたくさんあった中の三首。第四首、通勤電車は時間帯がちがうと乗客の顔ぶれがちがう。

● 高野公彦選

火の迫る高台に立つ住宅を一瞬映す望遠カメ
ラ (つくば市) 山瀬佳代子
鴨集い鯉は尾鰭をくねらせて春を呼び込む道
庁の池 (札幌市) 伊藤 哲
☆「歌詠むは心が外に出たい時」と教えくれし
は馬場あき子さん (中津市) 瀬口 美子
佛俣と言ふべきだろう二千年前の入選馬場あ
き子選 (鳥取市) 山本憲二郎
朝日歌壇47年馬場選の2万首余の内わが3首
あり (八王子市) 額田 浩文
病室で九十二歳の母が待つ十二都府県越えゆ
くわれを (西条市) 村上 敏之
☆大雪で遅れる電車いつもとは違ふ顔ぶれ職場
へ向かう (富山市) 松田 わこ
家じゅうの灯りをつけて夕暮れはひとり暮らし
でないふりをする (館林市) 阿部 芳夫
静けさと星の明かりを呼吸して夜の檸檬は少
しふくらむ (奈良市) 山添 聖子
滅びゆくもの美しやヴェネツィアの夜の灯に
「死者の書」を読む (運田市) 石橋 将男

【評】1首目、大船渡市を襲った広範囲な山火事の一映像。2首目、北国で春を待つのはヒト、そして多くの生き物たちも。3首目～5首目、今週は馬場さんが朝日歌壇の選者を退任されることを惜しむ歌が多くあったが、その中の3首。